

「都立高校と生徒の未来を考えるために—都立高校白書（平成23年度版）—」について

現行計画の取組

- 新しいタイプの高校の設置など
生徒の多様性に応じた教育の実施
- 学区の撤廃
- 規模と配置の適正化

教育を取り巻く状況の変化

- 教育基本法の改正、学習指導要領の改訂
- 日本の国際的地位の低下
- 非正規雇用の若者の増加
- 自分本位の広がりや内向き志向など
若者の意識の変化

- 社会の中で真に自立し我が国の次代を担う人材の育成が必要
- 学校教育の責務の増大

白書作成の目的

これまでの「一人一人の生徒の多様性に対応した弾力的な教育」だけでなく、「社会の要請に応え、生徒の能力を着実に伸ばして、社会の中で真に自立した人間を育て輩出していく」ことが必要である。こうした方向で今後教育改革を一層進めていく観点から、本白書を作成し、都立高校の現状と課題を明らかにする。

「都立高校と生徒の未来を考えるために—都立高校白書（平成23年度版）—」の構成

| 構成 | 主な内容（現状と課題） | 今後の教育に求められるもの |
|---|---|---|
| 第1章 都立高校の改革と白書作成の目的 1 これまでの「都立高校改革推進計画」の取組 2 教育基本法の改正と我が国の社会・経済状況の変化 | ・「都立高校改革推進計画」のこれまでの取組 ・社会の変化と学習指導要領の改訂など ・今、教育に求められること、白書作成の目的 | |
| 第2章 都立高校生の能力や意識の現状と課題 1 生徒の学力 2 生徒の社会貢献や社会規範に対する意識 3 生徒の体力と健康 4 産業、雇用・就業形態の変化と若者の職業的自立意識 5 社会・経済におけるグローバル化の進展に対する意識 | ・学力の定着が不十分である状況 ・社会貢献意欲が高い一方で、規範意識が希薄な状況 ・体力低下の状況 ・職業的自立意識が不足している現状 ・チャレンジ精神・国際感覚などが不足している現状 | ・基礎的・基本的学力の定着と向上、授業力の組織的な向上 ・社会貢献意欲と規範意識の醸成、人間性の涵養 ・運動の機会・運動量の確保 ・進路や目的意識の向上、職業的自立意識の確立 ・コミュニケーション能力の向上、広い視野とリーダーシップの育成 |
| 第3章 都立高校の現状と課題 1 全日制の普通科高校 2 全日制の専門高校 3 定時制・通信制課程 4 新しいタイプの高校 | ・普通科高校の中途退学の状況と活性化に向けた取組課題 ・専門高校を取り巻く状況、中途退学の原因、活性化の課題 ・定時制・通信制高校の生徒の多様性と中途退学の現状と課題 ・タイプごとの生徒の意識や学校の状況 | ・設置目的に応じた普通科の活性化、生徒の目標意識の向上 ・専門教育に必要な学力の定着と向上 ・多様な生徒への対応と中途退学者対策 ・学校の設置目的に応じた教育内容の充実 |
| 第4章 教員や学校経営体制の現状と課題 1 教員の職務 2 教職員の構成と配置 3 学校外からの人材の活用 4 教員の能力向上や研修体制 5 学校経営体制 6 地域との連携協力 | ・教員の職務状況、異動や年齢構成などの課題 ・外部人材活用状況と必要性 ・教育力や組織力向上の必要性 ・学校経営の課題 ・地域や社会との連携の在り方と必要性 | ・教員の能力向上、教員の改善意欲の向上、若手教員の育成 ・学校経営を支える支援、学校外の専門人材の活用 ・組織的な学校経営体制の確立、地域との連携強化 |
| 第5章 教育諸条件の現状と課題 1 入学者選抜制度 2 ICT化と情報セキュリティ 3 在京外国人生徒の受入れ 4 都立高校等における特別支援教育 5 学校施設の状況 6 防災拠点としての都立高校 | ・推薦等選抜の在り方 ・教育の情報化と情報モラルの向上 ・在京外国人生徒の状況 ・特別な支援を要する生徒の状況 ・老朽化対策や環境配慮 ・防災機能の必要性 | ・入選制度の在り方の検討、ICT教育の推進 ・在京外国人生徒、特別な支援を要する生徒への個に応じた指導 ・教育を支える施設・設備の充実、防災拠点としての役割 |
| 第6章 高校への進学の実況と課題 1 高校進学率 2 就学計画 3 私立学校、国・公立学校への進学状況 4 生徒数の今後の推移 5 高校教育に要する経費 | ・都内の高校の受入状況 ・就学計画の仕組みと実績 ・中学進学、高校進学の実況の推移 ・生徒数増加傾向の推計 ・教育にかかる経費と保護者負担 | ・中・長期的就学計画と適切な就学対策 ・都立高校の魅力の向上 ・保護者負担の在り方の検討 |

「都立高校と生徒の未来を考えるために—都立高校白書（平成23年度版）—」の主な記載内容

今後の教育に求められるもの

都立高校の改革と白書作成の目的（第1章） 2頁～

【現状】 都立高校改革の推進などにより中途退学率の低下など一定の成果を上げてきた。社会の変化と産業・雇用形態の変化、これら社会情勢の中における若者の意識そのものの変化などの状況から、今後も更なる改革により次代の担い手となる人材を輩出していくための教育が求められている。

【課題】 中途退学率が低下しているものの、中途退学する生徒はいまだ多い状況である。また、若者の意識の変化は、社会から求められている資質・能力と乖離している。

【原因】 生徒の学校選択の在り方、入学前後の印象の違い、自立意識の醸成、社会との絆の重要性の育成が不十分なことなどが考えられる。

平成20年4月に全日制都立高校に入学した生徒の平成23年3月末の状況

| | 入学者 A | 卒業者 B | 中途退学者 C | 転出者 D | 留年者 E | 未卒業率 C/A |
|------|--------|--------|---------|-------|-------|----------|
| 全日制 | 40,066 | 36,424 | 2,212 | 1,317 | 113 | 5.5% |
| 普通科 | 30,969 | 28,712 | 1,261 | 918 | 78 | 4.1% |
| 専門学科 | 7,177 | 5,910 | 895 | 345 | 27 | 12.5% |
| 総合学科 | 1,920 | 1,802 | 56 | 54 | 8 | 2.9% |

※普通科、専門学科、総合学科は全日制的内訳である。

平成19年4月に定時制都立高校に入学した生徒の平成23年3月末の状況

| | 入学者 A | 卒業者 B | 中途退学者 C | 転出者 D | 留年者 E | 未卒業率 C/A |
|-----|-------|-------|---------|-------|-------|----------|
| 定時制 | 4,387 | 2,284 | 1,705 | 178 | 220 | 38.9% |

- これまでの都立高校改革推進計画による施策の検証とともに、教育を取り巻く社会状況の変化を的確に把握し、都立高校と生徒の未来を考え、改革を続けていく必要があるため、都立高校の現状と課題を明らかにする。

生徒の学力（第2章 1） 6頁～

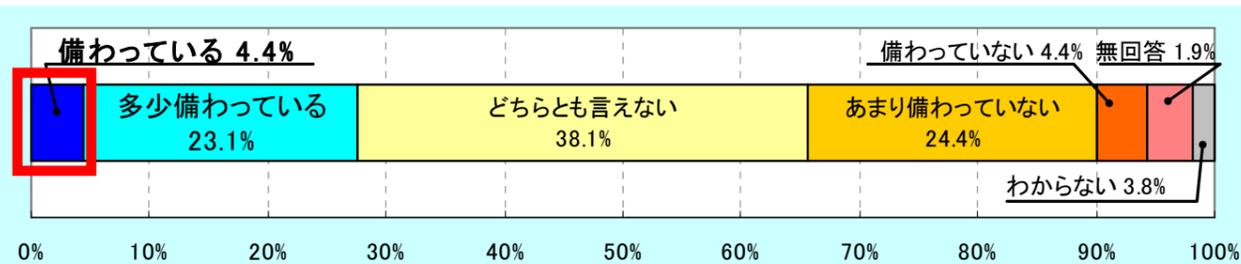
【現状】 個々の能力に応じた学力向上が必要であり、基礎的・基本的学力が未定着のまま高校を卒業している実態がある。

【課題】 教員個々の判断や力量による指導、学習意欲が低い生徒の存在などにより学力を伸ばしきれていない実態がある。

【原因】 小・中学校での学習内容の未定着、高校での学習のつまずきとその分析や対応の不足、指導体制の組織化の不足などが考えられる。

「都立高校の現状把握に関する調査(大学等意識調査)」(平成23年度)
問 近年入学した学生には、高校卒業時に習得すべき学力は備わっていますか。

回答数=160団体



- 各学校の設置目的に応じた生徒一人一人の学力の確実な定着と学力向上への取組
- 都立高校を卒業する生徒への学力保障

生徒の社会貢献や社会規範に対する意識（第2章 2） 12頁～

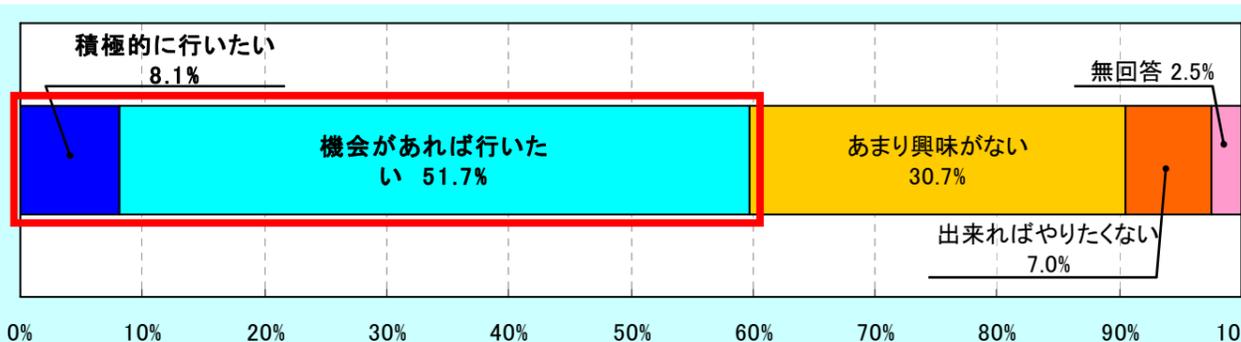
【現状】 在校生の過半数が、社会貢献活動をしたと回答している。また、都民、保護者、本人ともに、都立高校生の規範意識が低下していると感じている。

【課題】 都立高校生が社会貢献活動を行いたいと感じているが、防災への期待も踏まえた意欲・意識を発揮し高める取組が不十分である。都立高校における生活指導の効果が低い。人間性の涵養のための取組が不十分である。

【原因】 社会貢献活動の実践への取組の不足、各校での生活指導体制の組織化の不足などが考えられる。

「都立高校の現状把握に関する調査(都立高校生意識調査)」(平成23年度)
問 あなたは今後、ボランティアなどの社会貢献活動を行いたいですか。

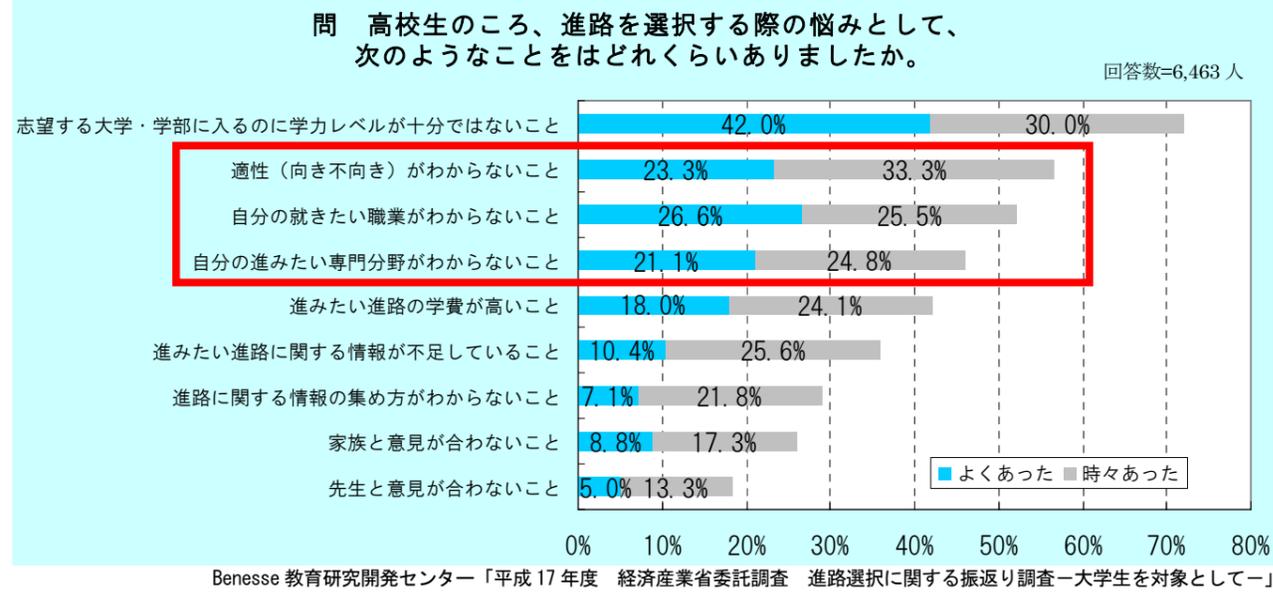
回答数=7,674人



- 防災教育の充実を通じた社会貢献活動の実践による社会貢献意欲と意識を向上する取組
- 都立高校生の規範意識を高めるための生活指導方針や方法の確立
- 生徒の発達段階に応じた道徳教育の充実

産業、雇用・就業形態の変化と若者の職業的自立意識（第2章 4） 20頁～

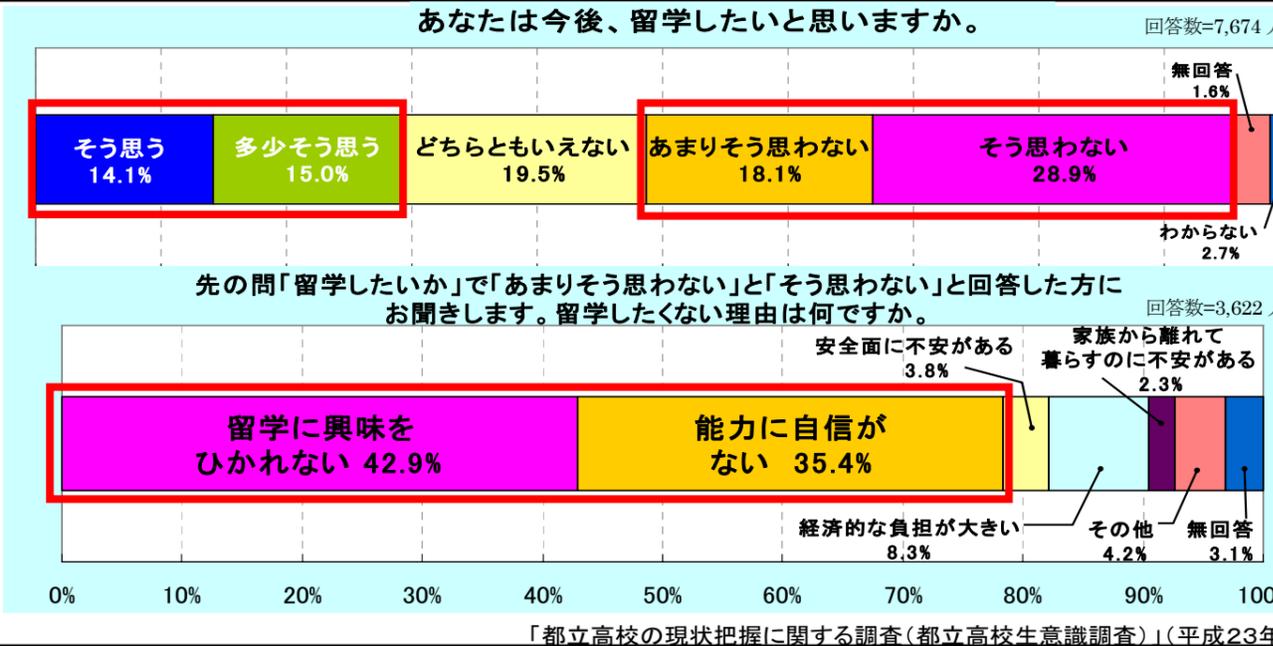
【現状】 就業構造の変化や社会経済の停滞などにより高校や大学を卒業しても社会の中に受入先を簡単に見つけにくく、いわゆるフリーターや非正規雇用者が増加している。
【課題】 生徒の職業的意識や職業観の未熟さから、進路意識や目的意識が希薄なまま進学する者が増加し、また高校卒業後に就職した者が早い時期に離職するなどの実態が存在する。
【原因】 企業等の外部人材や教育プログラムを効果的に活用するための仕組みの不足、企業開拓等の就職指導に必要な知識やスキルをもった教員の不足、職業的自立意識を育む環境が不十分なことなどが考えられる。



- 進路意識や目的意識の向上
- 職業人としての基本的能力の定着
- 職業的自立意識の涵養

社会・経済におけるグローバル化の進展に対する意識（第2章 5） 27頁～

【現状】 グローバル化が進展するにつれ日本の相対的地位が低下する中で、高いコミュニケーション能力や広い視野、世界に飛び出る覚悟、強いリーダーシップを兼ね備え、日本の未来を担う人材が必要になっている。
【課題】 海外で学んだり働いたりすることを躊躇する高校生が多数存在する。また、日本語、英語によるコミュニケーション能力の低下が指摘されている。
【原因】 「能力に自信がない」、「リスクが高い」などの理由から、より高い目標を設定してその実現に向けてチャレンジしようという姿勢に乏しい生徒が見受けられる。また、思考力・判断力、表現力などの言語活動が、各教科で十分ではない現状がある。



- コミュニケーション能力の向上
- 海外を含めた広い視野
- 言語習得機会の提供

全日制の専門高校（第3章 2） 36頁～

【現状】 商業高校や工業高校の志望倍率の低迷が続いており、リーディング校の指定等の活性化策を実施してきたが、全体の活性化を図ることができず志望者増にもつながらない。中途退学率も普通科に比して高い。
【課題】 新たな職業教育の在り方の検討が必要である。
【原因】 産業・就業構造、生徒の進学志向の高まりなど、社会や都民のニーズが変化していることなどが考えられる。

| 都立高校全日制等志望予定（第1志望）調査（抜粋） | | | H22年度学科別中途退学状況 | | |
|--------------------------|--------|-------|----------------|--------|-------|
| 学科（全日制） | （単位：倍） | | | 中途退学者数 | 中途退学率 |
| | H9年度 | H18年度 | H23年度 | | |
| 普通科（男・学年制） | 1.37 | 1.29 | 1.36 | 1,107人 | 1.2% |
| 普通科（女・学年制） | 1.33 | 1.37 | 1.45 | | |
| 農業科 | 1.39 | 1.22 | 1.32 | 39人 | 2.0% |
| 工業科 | 1.01 | 1.05 | 1.05 | 401人 | 5.3% |
| 商業科 | 1.03 | 1.01 | 0.95 | 198人 | 3.7% |

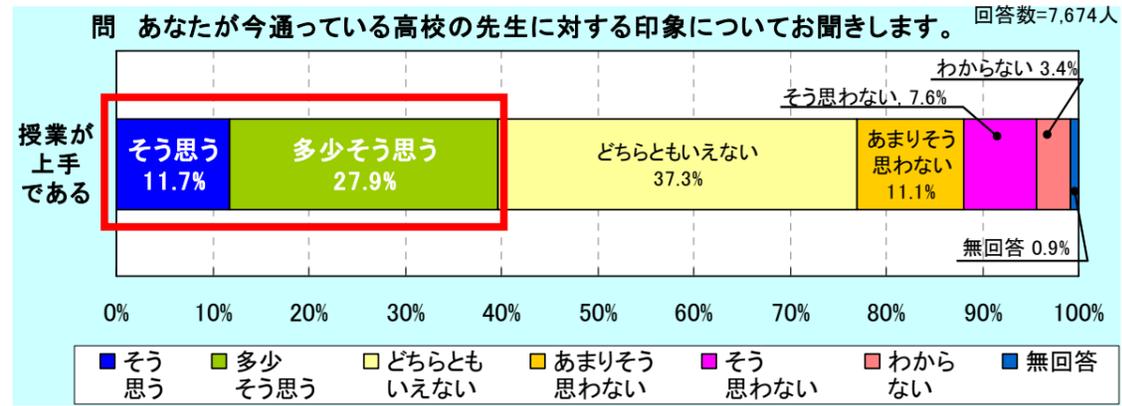
- 専門教育に不可欠な基礎的・基本的学力の向上
- 産業・就業構造の変化に対応した専門教育の提供

教員の能力向上や研修体制（第4章 4） 69頁～

【現状】 都立高校において、確かな学力の向上、規範意識の醸成といった教育内容や教育活動の充実が求められている。

【課題】 教科指導、生徒指導、就職・進学指導などの様々な分野において、抜群の力や専門性を持つ教員が十分育成できていない。若手教員の育成が必要となっている。

【原因】 教員の職務に対する評価が不十分なこと、職務に対する向上心や職務遂行能力が十分でないこと、高年齢の教員の大量退職の到来などが考えられる。



- 教員の資質能力の向上
- 若手教員の育成
- 専門的な指導力の育成

入学者選抜制度（第5章 1） 78頁～

【現状】

- ①全日制の生徒受入予定人数の約25%を占める推薦選抜において、各高校が受検者の能力・適性等を一層多面的に評価することが十分できていない。
- ②合格者の学力検査時の得点分布に大きな開きがある場合がある。

【課題】

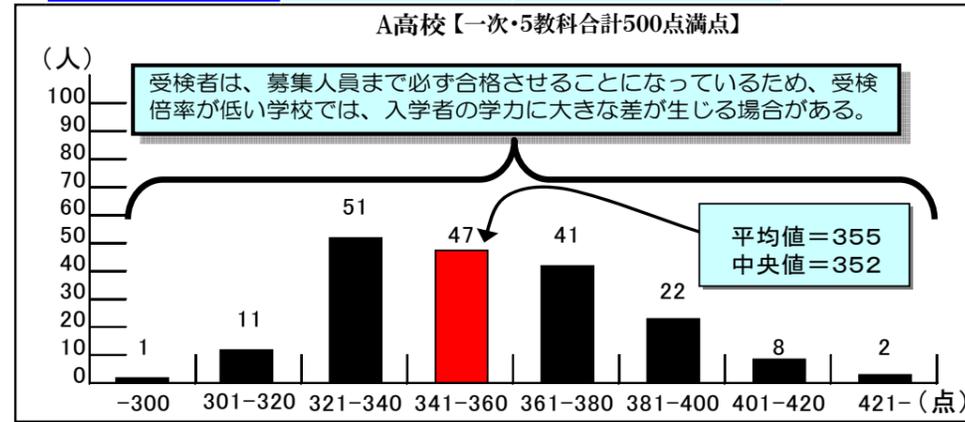
- ①各高校が、推薦選抜制度の趣旨についての理解不足から、推薦選抜により単に調査書点の高い生徒を早期に確保しようとする場合が見られる。
- ②授業について行けない生徒を生み出すことのないよう、入学者選抜制度の観点から検証していく必要がある。

【原因】

- ①推薦選抜制度をはじめとした入学選抜制度全般にわたる検証が不十分である。
- ②入学者選抜においては各学校で受検者を募集人員まで合格させることになっているため、結果として学力差が生じやすく、授業レベルについていけない生徒が入学する場合がある。

平成23年度推薦選抜における学校選択制検査方法の実施状況（全日制226学科）

| 検査方法 | 学科数 A | 学科数に占める割合 (A/226学科) |
|--------|-------|---------------------|
| 小論文実施 | 14学科 | 6.2% |
| 作文実施 | 27学科 | 11.9% |
| 実技検査実施 | 14学科 | 6.2% |

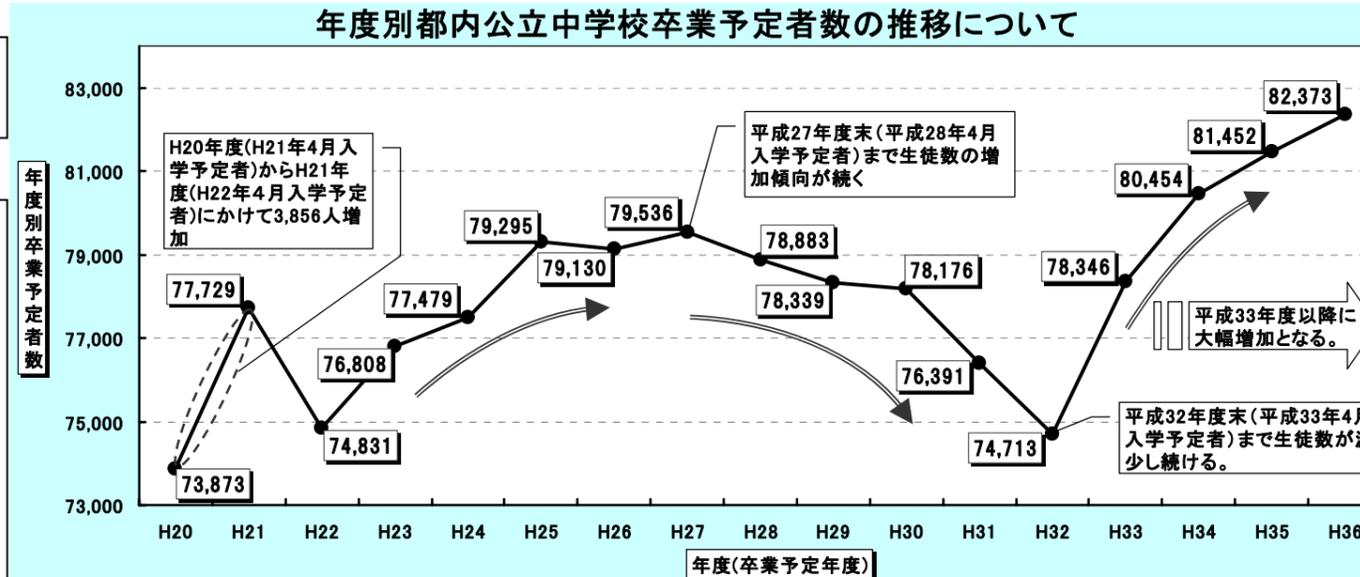


- 推薦選抜など入学者選抜全般の検証
- 入学後に学力不振とならないための入学者選抜の仕組みづくり

生徒数の今後の推移（第6章 4） 99頁～

【現状】 平成23年度の都内公立中学校卒業生数は76,808人であるのに対し、平成36年度には82,373人になると推定されており、生徒の減少期から増加期へと転じている。

【課題】 教育の質を維持するとともに、生徒の増加に適切に対応していく必要がある。



1 各年度の数値は、平成23年度教育人口等推計による各年度5月1日現在の中学校3年生在籍者数推計値である（H23以前の数値は実数）。
2 各年度5月1日現在の中学校3年生在籍者数を当該年度の卒業予定者数とした。

- 中・長期的就学計画と適切な就学対策
- 都立高校の魅力の向上
- 保護者負担の在り方の検討